

郷土への思いが深まる地域の魅力を再発見!

# 「西多久見聞録」

特集

地域の言い伝えや、古くからある特産品。この夏、地域の宝に光を当てたプロジェクトが西多久町内で行われました。町内の子どもたちが現地を訪れて取材をし、その魅力を『西多久見聞録』という1冊の本にまとめる西多久町子どもクラブ連合会との共同主催プロジェクト。子どもから大人まで、町内を賑わせた、その全貌をご紹介します。



## 地域の繋がりを 深めるために

プロジェクトのくわしい話を「西多久見聞録」の発起人である多久市地域おこし協力隊の大屋謙太さんと、見聞録のデザインを担当した藤井啓輔さん（北多久町）に伺いました。

地域おこし協力隊として1年半が経つ大屋さんは「多くの人と繋がって西多久のいいところや興味深い歴史をたくさん知ることができました。高齢化が加速度的に進む町内で、子ども同士や、地域の大人とのつながりを深める機会づくりが重要だ」と思い、このプロジェクトを企画しました。この取り組みで、本ができれば子どもたちの「やりがい」が生まれるだけでなく、町外の人に西多久の良さを伝えられると考えたんです」と話します。

大屋さんは情報を集めるため、まずは地域の人に話を聞きに行ったり、老人会に顔を出したりして18個の「ネタ」を選定。昔話や文化財、特産品などの6つのテーマを設けました。さらに、町内にくわしい区長や元教師など6人に取材の段取りや同行を担当する「地域スタッフ」を依頼し、準備を進めました。

7月27日(金)の事前研修会には、東原庁舎西溪校に通う1～9年生までの43人が集い、プロジェクトがスタート。制作にあたり、各グループの後期課程の生徒をリーダーとして、インタビューやスケッチは7年生以上が、撮影や風景画の作成は低学年の児童が担当し、参加者全員で役割を分担しました。

## 大人にとっても 新発見の連続!

子どもたちに西多久町の話をすることにになった地域の「物知り博士」たちは、地域の魅力を正確に伝えよう



デザイナー  
藤井 啓輔 さん

地域おこし協力隊  
大屋 謙太 さん